

「環境の世紀」におけるCSR

ニッパツは、持続的発展が 可能な社会づくりを担います。

地球規模の環境問題は年々多様性と重大性を増しています。企業活動をはじめ人類の活動そのものの影響により、地球温暖化やオゾン層の破壊、森林破壊、世界各地で頻発する異常気象などが、地球の許容限度を超えることによって引き起こされています。「繁栄」と「発展」は人類の共通目標ですが、環境破壊の進行は、地球自らが持つ自浄作用の限度を超え、私たちの未来を脅かすまでになってきました。

急激な経済成長の一方で地球規模の環境問題が進行した20世紀に対して、21世紀は「環境の世紀」と言われています。ものづくりを行う企業は、まずその社会的責任を強く認識し、生産活動や製品が地球に与える負荷を最小化するための最大限の努力で、持続的発展が可能な社会づくりを担っていく必要があります。

私たちニッパツは、自動車、情報通信、産業・生活など多くの分野に携わる企業として、「環境保全活動の継続的な推進」を経営の重要課題ととらえ、生産活動における環境負荷低減と、環境に配慮した製品開発・技術開発に、全社一丸となって取り組んでまいりました。さらに、トップから従業員一人ひとりにまで環境問題に関する意識改革と啓発活動を行い、2001年4月までに全工場でISO14001を認証取得し、現在は全グループ企業での認証取得をめざした活動に取り組んでおります。

ここに、当社第5回目となる2005年度版環境報告書を発行いたします。今回より社会性報告を加え、タイトルを「環境・社会報告書」と改めました。昨今、「企業の社会的責任」をめぐる議論が注目を集め、CSR (Corporate Social Responsibility) という考え方が浸透しつつあります。2005年4月、当社は2007年度を最終年度とする中期経営計画を策定し、CSRの観点に立った社内改革に着手しました。この報告書では、当社が一企業として果たすべき社会的責任について、その概要を開示いたします。

この報告書をお読みいただき、今後の活動に向けた皆様の率直なご意見とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2005年9月
日本発条株式会社
代表取締役社長

佐々木 謙二



ニッパツは、「社訓」が基本的な社会の規範であると
従業員一人ひとりが理解し、
「企業理念」に沿った行動と事業活動で
社会的責任を果たします。

社 訓

躍進のニッパツ
根性のニッパツ
みんなのニッパツ

企業理念

グローバルな視野に立ち
常に新しい考え方と行動で
企業の成長をめざすと共に
魅力ある企業集団の実現を通じて
豊かな社会の発展に貢献する

編集方針

この報告書は、環境省発行「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考に作成しました。投資家、株主、取引先、工場周辺の方々などを対象としています。また2005年度版よりタイトルを「環境・社会報告書」に改め、社会性の情報拡充を図りました。

報告対象範囲

この報告書は、原則として2004年4月から2005年3月のニッパツ(国内関連会社の活動も含む)の事業活動を対象としています。また発行が9月のため、大きな進捗については2005年4月以降の活動も掲載しています。

C O N T E N T S

トップコミットメント	1
ニッパツの経営ビジョン	3
2004年度環境・社会性活動ハイライト	3

ニッパツの事業活動

事業活動と環境・社会との関わり

事業活動とライフサイクルフロー	5
-----------------	---

製品開発と技術開発

自動車分野	7
情報通信分野	9
産業・生活分野	10

環境報告

環境マネジメントシステム

環境ボランティアプラン	11
環境保全推進体制	12
ISO14001への対応	13
環境監査	14
環境教育と啓発活動	15
環境会計	16

環境パフォーマンス

省エネルギー、CO ₂ 排出量の削減	17
循環型社会への取り組み	18
環境負荷物質の管理と削減	19
国内関連会社の取り組み	20

社会性報告

企業としての社会的責任

コーポレート・ガバナンス	21
--------------	----

ステークホルダーへの姿勢

顧客／サプライヤー	23
従業員	24
地域社会	25
ニッパツを囲む皆様の声	27

データ集

事業活動の歩み	28
工場別サイトデータ	29
国内関連会社の状況	33
ニッパツ会社概要	34